

専 門 教 養
令和元年 7 月
60 分

受 験 教 科 等
特別支援学校中・高 <b>保健体育</b>

## 注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 問題の音読等、他の受験者の迷惑になるような行為、携帯電話の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、23ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは不要です。
- 8 この問題は、**教科等に関する問題 1 ~ 4**、**特別支援教育の専門に関する問題 I ~ IV**の各問題から構成されています。
- 9 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 10 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年又は平成30年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 11 問題の内容についての質問には一切応じません。

## ===== 解答上の注意 =====

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（-）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つのみの場合とがあります。
- 2 「解答番号は 1。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号 1 の解答欄の③にマークしてください。

（例1）

解答番号	解答欄
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。

3 問題文中の 、 などの  には、数字又は符号（-）が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1) 、、、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号（-）のいずれか一つに対応します。それらを 、、、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="2"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="3"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="4"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に 、 などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、、 のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\text{56}}{\text{7}}$  に  $-\frac{4}{5}$  と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$  として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="5"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="6"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="7"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4 「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は 、、。」と表示のある問に対して、2と5と8と解答する場合には、次の(例4)のように「②、⑤、⑧」の順にマークします。

このとき、「②、⑤、⑧」以外の「⑤、②、⑧」や「⑧、②、⑤」などの順にマークした場合には、不正解となります。

(例4)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="11"/>	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="12"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="13"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖

## 教科等に関する問題

1 我が国の体育・スポーツに関する次の各問に答えよ。

[問 1] 「平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」(スポーツ庁 平成30年12月)の中学校生徒の調査結果に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 男子では握力、50m走、ハンドボール投げにおいて、女子では上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、立ち幅とび、ハンドボール投げにおいて、平成20年度の調査開始以降、平成30年度が過去最高値を示した。
- 2 男子では上体起こし、長座体前屈、持久走、50m走において、女子では握力、長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げにおいて、平成20年度の調査開始以降、平成30年度が過去最高値を示した。
- 3 男子では長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅とびにおいて、女子では上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とびにおいて、平成20年度の調査開始以降、平成30年度が過去最高値を示した。
- 4 男子では反復横とび、持久走、立ち幅とびにおいて、女子では上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げにおいて、平成20年度の調査開始以降、平成30年度が過去最高値を示した。

[問 2] 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(スポーツ庁 平成30年3月)の内容として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 運動部活動は、生徒の状況に応じて、活動内容を決めることが大切であり、年間及び毎月の活動計画は作成しないようにする。
- 2 本ガイドラインの基本的な考え方は、学校の種類や学校の設置者の違いに関わらず該当するため、高等学校段階の運動部活動についても本ガイドラインを原則として適用する。
- 3 運動部顧問は、スポーツ医・科学の見地から休養日を設けることなく、トレーニング効果が得られる指導を行う。
- 4 少子化に伴い、単一の学校では特定の競技の運動部を設けることができない場合は、生徒を複数の運動部活動に所属させ、学校単位で出場する取組を推進する。

〔問 3〕 次の記述ア～エは、「『東京都オリンピック・パラリンピック教育』実施方針」（東京都教育委員会 平成28年1月）の重点的に育成すべき五つの資質を伸ばすために推進する四つのプロジェクトに関するものである。ア～エと、プロジェクトの種類A～Dとの組合せとして適切なものは、下の1～8のうちのどれか。解答番号は 3。

**ア** 「共生社会」の実現に向け、お互いの人格や個性についての理解を深め、自ら主体的に関わる方法を考えさせ、思いやりの心を育成するものであり、思いやりの心を育てる取組や、障害の有無にかかわらず、相互理解を図る教育を充実・拡大する取組。

**イ** 各学校が取り組んできた社会奉仕の精神を養う取組を充実・拡大させていくものであり、ボランティアマインドを育むとともに、自尊感情を高めていくために、発達段階に応じて、ボランティア活動を計画的・継続的に行う取組。

**ウ** オリンピアンやパラリンピアン等のアスリート等を学校に派遣し、直接交流を通して、オリンピック・パラリンピックの素晴らしさを実感できるようにするとともに、スポーツへの関心を高め、夢に向かって努力したり困難を克服したりする意欲を培う取組。

**エ** 世界には多くの国があり、その国の様々な人種や言語、文化、歴史などを学ぶことを通して、単に知識を広げるだけでなく、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解する取組。

- A スマイルプロジェクト
- B 世界ともだちプロジェクト
- C 夢・未来プロジェクト
- D 東京ユースボランティア

- |   |     |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ア－A | イ－D | ウ－B | エ－C |
| 2 | ア－A | イ－D | ウ－C | エ－B |
| 3 | ア－B | イ－C | ウ－A | エ－D |
| 4 | ア－B | イ－D | ウ－C | エ－A |
| 5 | ア－C | イ－B | ウ－D | エ－A |
| 6 | ア－C | イ－D | ウ－A | エ－B |
| 7 | ア－D | イ－A | ウ－C | エ－B |
| 8 | ア－D | イ－C | ウ－B | エ－A |

**2** 事故防止及び安全管理に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 「学校の管理下の災害 [平成30年版]」(独立行政法人日本スポーツ振興センター 平成30年11月)の「高等学校等・高等専門学校における事故防止の留意点」に関する記述として適切なものは、次の**1**～**4**のうちのどれか。解答番号は **4**。

- 1** 課外活動では、野球の事故が最も多い。事故の背景には、生徒の体力不足が指摘されているので、互いに声を掛けたり、日頃から施設や用具を点検したりするなどの危険回避対策を行うよりも、体力の向上を最優先して行う必要がある。
- 2** 体育活動中の障害事故の特徴を挙げると、最も多い障害は歯牙障害で、次いで頭部・頸椎損傷による精神・神経障害、次に顔面打撲等による視力・眼球運動障害である。そのため、歯牙障害防止のための安全保護具としてマウスガードの使用を推奨している。
- 3** サッカーでは、他者の至近距離でボールを蹴ることが多いため、技術が未熟であったり、選手間に技術の差があったりした場合には事故発生の可能性が高まる。指導者は、能力に配慮した練習・試合を計画することを心掛けるべきである。
- 4** 保健体育の授業で最も事故が多いのは、走り高跳びで、着地の際にマットから外れて地面に落ちたり、着地の際に足首を捻ったりする事故がみられる。バーの高さを低く設定したり、走り高跳び専用のマットを設置したりするなど指導や用具の工夫が必要である。

[問 2] ゴール等の転倒による事故防止に関する記述として、「平成29年度スポーツ庁委託事業学校における体育活動での事故防止対策推進事業ゴール等の転倒による事故防止対策について」(独立行政法人日本スポーツ振興センター 平成30年3月)に照らして最も適切なものは、次の**1**～**4**のうちではどれか。解答番号は **5**。

- 1** アルミ製のサッカーゴールは軽量に作られており、転倒した際に生じる衝撃力によって頭蓋骨を骨折する等の危険はないので、買い替えを進めている。
- 2** パイプの直径が12cmの移動式サッカーゴールは、重量が大きいため風により転倒することはない。
- 3** サッカーゴールの転倒防止策として、杭で固定するか、重りで固定することが必要である。重りは、総重量60kgの重りで固定する。
- 4** サッカーゴールを移動・設置する際には、指導者の立会いの下、十分な人数で全員が大きな声で声掛けを行うことが大切である。

[問 3] 学校管理下における熱中症事故に関する記述として、「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(公益財団法人日本スポーツ協会 平成30年7月)に照らして適切なものは、次の1～4のうちのどれか、二つ選び答えよ。ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は  、  。

- 1 熱中症死亡事故は、7月下旬から8月上旬にかけて多く発生しているが、気温が低い2月でも発生している。
- 2 部活動中の熱中症死亡事故の数は、屋外種目では野球、屋内種目ではバスケットボールで多く発生している。
- 3 WBGTが16℃以下でも熱中症事故は起こり、28℃を超えると急激に増加するが、31℃以上になると発生件数は減少している。
- 4 熱中症死亡事故数は、女子が男子に比べ多く、体力や技術が未熟な小学校の低学年に多くみられる。

**3** 「体育」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 体づくり運動に関する記述**ア**～**エ**のうち、中学校第1学年及び第2学年に関するものを選んだ組合せとして中学校学習指導要領に照らして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は  。

**ア** 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせること。

**イ** 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。

**ウ** 多様な動きをつくる運動では、体のバランスを取る動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせること。

**エ** 実生活に生かす運動の計画では、自己の日常生活を振り返り、健康の保持増進や調和の取れた体力の向上を図るために、体の動きを高める運動の計画を立てて取り組むこと。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 2] 次の文章は、高等学校第1学年の「水泳」の学習において、ある生徒が学習カードに書いた授業の振り返りに関するものである。この生徒に対する教師の指導に関する記述として最も適切なものは、下の1～4のうちではどれか。解答番号は  。

背泳ぎの練習をバディを組んで行った。バディのA君に「脚と腰が沈んでいるからキックがんばって」とアドバイスもらった。脚と腰が沈まないように泳ぐことを心掛けたい。

- 1 背浮き姿勢を身に付けることが大切であるため、頭部は両耳を水面上に置き、顎を上げ、視線は斜め前の方に向けた姿勢を取るよう指導する。
- 2 キックの際、左右の脚の幅は親指が触れない幅にする。蹴り上げ動作は、膝を中心にしてい、脚を自然に伸ばして蹴り上げるよう指導する。
- 3 腕の動作は小指側から入水させ、手のひらが水面近くを太ももに触れる程度までかき進め、小指側から水面に引き上げるよう指導する。
- 4 ビート板を胸の前や腹部に抱えたり、両手を頭上に組んで背中を伸ばしたりしてキックするよう指導する。



[問 3] 次の記述ア～エは、バスケットボールの試合におけるルールに関するものである。  
「2018バスケットボール競技規則」(公益財団法人日本バスケットボール協会 2018年4月)に照らして適切なものには①を、適切でないものには②をそれぞれマークせよ。  
解答番号はアが 、イが 、ウが 、エが 。

ア フロントコートからスローインで出されたパスを空中でボールをキャッチし、センターラインをまたいで着地した場合、バイオレーションとなる。

イ ボールを持ったまま、意図せずフロアに滑ってしまい、横たわったままボールをコントロールして同じチームのプレーヤーにパスを出した場合、トラベリングとなる。

ウ ひと続きの動作あるいは立ち止まってドリブルを終了した後、意図的にボールをバックボードに投げ、他のプレーヤーが触れる前にそのボールをキャッチした場合、ダブルドリブルのバイオレーションとなる。

エ ショットは成功したが、ショットの動作中に相手チームのプレーヤーにパーソナルファウルをされた場合、得点は認められず、2本のフリースローが認められる。

[問 4] 「日本卓球ルールブック2017 (平成29年版)」(公益財団法人日本卓球協会 2017年3月)に示された、卓球のルールに関する記述として適切なものは、次の1～4のうちどれか。解答番号は 。

- 1 サービスを行う際、手のひらにボールを乗せ、ほぼ垂直に15cm以上投げ上げ、ボールが落下してくるところを打球する。
- 2 促進ルールが適用されると、サービスは2本ごとに交替する。また、サーバーがサービスを含めて1分間で得点しないと、レシーバーの得点となる。
- 3 ダブルス競技では勝敗を決定する最終ゲームで、どちらかの組が5ポイント先取した時に、次にレシーブする組は、レシーバーの順序を交替しなければならない。
- 4 ダブルスの打球は各組の2人が交互に打ち終わった後、打つ順番は自由に変えることができるが、1人で3回連続で打つと、フォルトとなる。

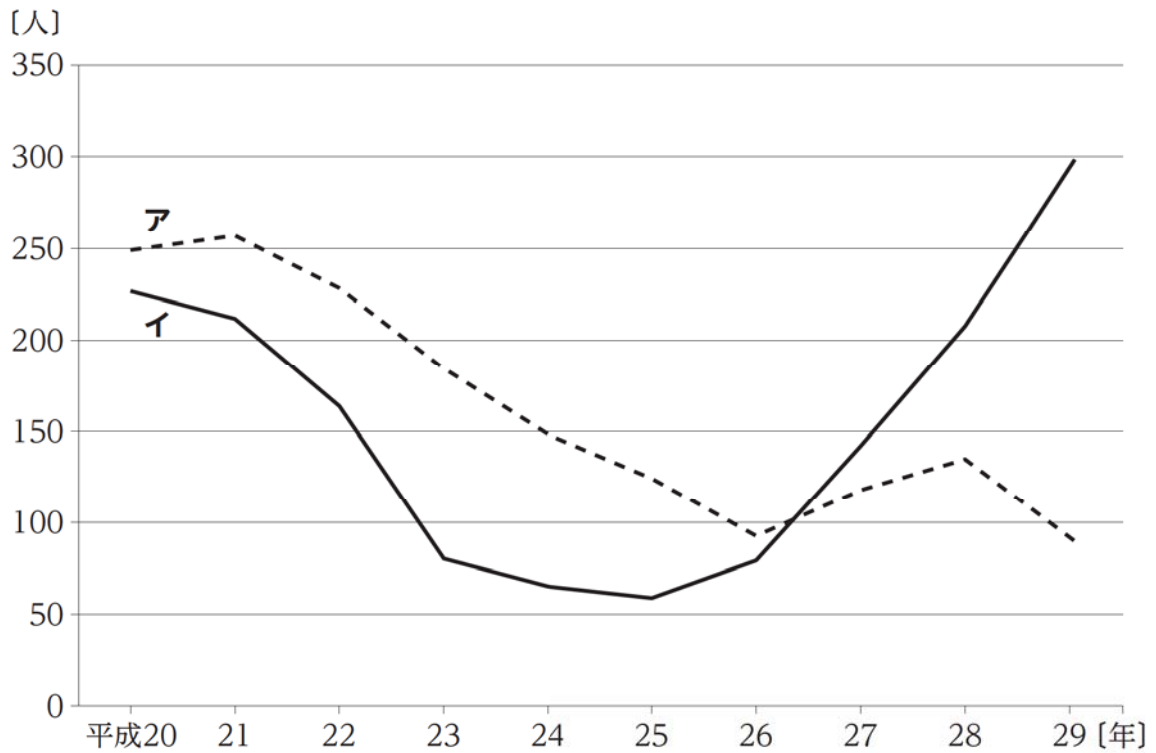
[問 5] 次の図は、柔道の技の連絡の様子を示したものである。図に示した技の連絡に関する説明として適切なものは、下の1～6のうちのどれか。ただし、図中のⒶは「技をかける人」、Ⓑは「技を受ける人」を示している。解答番号は 15。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

- 1 Ⓐは、Ⓑを右後ろ隅に崩し、小外刈りで倒した後、足をさばいてⒷの体側に付き、肩固めで抑える。
- 2 Ⓐは、Ⓑを右後ろ隅に崩し、大内刈りで倒した後、引き手を離さずに、けさ固めで抑える。
- 3 Ⓐは、Ⓑを右後ろ隅に崩し、小内刈りで倒した後、足をさばいてⒷの体側に付き、横四方固めで抑える。
- 4 Ⓐは、Ⓑを左後ろ隅に崩し、小外刈りで倒した後、引き手を離さずに、けさ固めで抑える。
- 5 Ⓐは、Ⓑを左後ろ隅に崩し、大内刈りで倒した後、足をさばいてⒷの体側に付き、横四方固めで抑える。
- 6 Ⓐは、Ⓑを左後ろ隅に崩し、小内刈りで倒した後、足をさばいてⒷの体側に付き、肩固めで抑える。

4 「保健」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の図は、我が国の薬物乱用による犯罪少年の検挙人員の推移を示したものである。次の図中のア・イに当てはまる薬物乱用の事犯として適切なものは、下の1～4のうちどれか。解答番号はアが  、イが  。



(警察庁生活安全局少年課「平成29年中における少年の補導及び保護の概況」から作成)

- 1 覚醒剤事犯
- 2 シンナー等乱用事犯
- 3 大麻事犯
- 4 麻薬事犯

[問 2] 次の記述ア～エは、心の健康に関するものである。記述ア～エと、名称A～Dとの組合せとして最も適切なものは、下の1～8のうちではどれか。解答番号は 18。

**ア** 高校生の発症が多く、周囲で起きていることを自分と関係付けて被害的に解釈することが多くみられる。発病初期には、うつ状態、集中力低下、こだわり、不眠、不登校等が現れ、軽度で一過性の不調に見えることがあるため、注意が必要である。

**イ** 自然災害や事故、犯罪被害等が要因で、悪夢、不安・恐怖感、現実感喪失、自律神経失調等の身体症状、心理的退行など多彩な症状を伴う。さらに、トラウマを連想させる状況と関連したパニック障害を合併することもあるため、医療的対応が必要となる。

**ウ** 自身から報告することは少ないため、学校では気付かれないことが多い。家族内葛藤や個人の心理・身体・行動の特性、ストレス耐性等の自我の成熟度等が発症準備因子となる。

**エ** 激しい運動や疲労などの身体的因子や、不安、恐怖、怒りなどの精神的因子が存在するところに、ストレスが誘因となり発作的に起こる。胸が苦しくなる、動悸などとともに、手足のしびれ、硬直、ふるえ、頭痛、意識消失などの症状が現れる。

- A 心的外傷後ストレス障害
- B 神経性食欲不振症
- C 統合失調症
- D 過換気症候群

- |   |     |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ア-A | イ-B | ウ-D | エ-C |
| 2 | ア-A | イ-D | ウ-B | エ-C |
| 3 | ア-B | イ-A | ウ-C | エ-D |
| 4 | ア-B | イ-C | ウ-A | エ-D |
| 5 | ア-C | イ-A | ウ-B | エ-D |
| 6 | ア-C | イ-B | ウ-A | エ-D |
| 7 | ア-D | イ-A | ウ-B | エ-C |
| 8 | ア-D | イ-B | ウ-A | エ-C |

[問 3] 次の梅毒に関する記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを全て選んだ組合せとして適切なものは、下の1～9のうちのどれか。解答番号は  。

**ア** 日本における梅毒の報告数は、平成22年から増加に転じ、平成24年から平成29年の間で6倍以上に急増している。10代後半から20代前半では、平成27年に女性の報告数が男性の報告数を上回った。

**イ** 治療については、早期の薬物治療で完治が可能である。検査や治療が遅れたり、治療せずに放置したりすると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがある。完治しても感染を繰り返すことがあり、再感染の予防が必要である。

**ウ** 感染源は、エンテロウイルスという病原菌で、感染経路は性的な接触によって感染する。また、妊娠している人が梅毒に感染すると、流産、早産の原因となり、分娩時の産道感染では、新生児に結膜炎や肺炎を起こすことがある。

**エ** 感染から発症までの期間は、症状により3期に大別される。第1期は、感染から3週間前後の潜伏期間を経て、感染した部分にしこりができたり、鼠径部のリンパ節が腫れたりすることがあり、強い痛みを伴い、歩行に支障を来たす。

- 1 ア・イ
- 2 ア・イ・ウ
- 3 ア・ウ
- 4 ア・ウ・エ
- 5 ア・エ
- 6 イ・ウ
- 7 イ・ウ・エ
- 8 イ・エ
- 9 ウ・エ

[問 4] 次の記述ア～オは、がん教育実施上の留意点である。「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」(文部科学省 平成28年4月)に照らして適切なものには①を、適切でないものには②をそれぞれマークせよ。解答番号はアが  、イが  、ウが  、エが  、オが  。

ア 専門家等の外部講師は、専門性を備えているので、授業計画の作成に当たっては外部講師が主体となるよう留意すべきである。

イ 教員と外部講師は事前事後で打合せを行うことで、授業のねらいを押さえ、教育効果を高めることが期待される。

ウ がん教育を実施する指導形態には、学校全体で行う場合と、学年単位で行う場合や学級単位で行う場合などがある。

エ 各教科担任が実施する授業と、専門家等の外部講師の協力を得て実施する学校行事等は、それぞれ関連付けず指導することで成果を上げるように留意する。

オ がん患者・経験者の体験談は貴重であるが、家族に経験者がいる場合などには、強い印象を与える可能性があることに留意しなければならない。

## 特別支援教育の専門に関する問題

I 特別支援教育に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述ア～エのうち、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年4月1日施行）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

ア この法律は、障害者基本法の基本的な理念にのっとり、障害を理由とする差別の解消を推進し、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的としている。

イ 障害者とは、身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者であって、その障害に起因する困難により、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある者であり、社会的障壁を含まないものをいう。

ウ 行政機関等及び事業者は、社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、施設の構造の改善及び設備の整備に努めるよう規定されているが、職員に対する研修は規定されていない。

エ 行政機関等及び事業者は、その事務又は事業を行うに当たり、障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならないとされている。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 学校教育における合理的配慮に関する記述ア～エのうち、「特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告1」（中央教育審議会初等中等教育分科会 平成24年7月13日）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

**ア** 合理的配慮とは、障害のある子供が、他の子供と平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものである。

**イ** 障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国、都道府県及び市町村は、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらの合理的配慮の基礎となる「基礎的環境整備」を基に、学校の設置者及び学校は、各学校において、障害のある子供に対し、法令に基づいて一律の環境整備を行う。

**ウ** 合理的配慮は、一人一人の障害による困難を軽減するために提供されるものであるため、学校の設置者及び学校は、合理的配慮の観点を踏まえ、本人と保護者の意向を聞き取る前に、提供可能な合理的配慮を考えて提供することが求められ、その内容を個別の教育支援計画に明記する。

**エ** 合理的配慮は、その障害のある子供が十分な教育が受けられるために提供できているかという観点から評価することが重要であり、それについても研究していくことが重要である。例えば、個別の教育支援計画、個別の指導計画について、各学校において計画に基づき実行した結果を評価して定期的に見直すなど、PDCAサイクルを確立させていくことが重要である。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ



[問 3] 特別支援教育に係る教育課程についての記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の 1～6 のうちではどれか。解答番号は 27。

**ア** 特別支援学級において特別の教育課程を編成する場合、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す自立活動を取り入れることとする。

**イ** 特別支援学級においては、特に必要がある場合は、特別の教育課程を編成することができるため、指導する内容は、指導に当たる教員の裁量によって特別に決めて指導することができる。

**ウ** 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部の教育課程は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語の各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動によって編成する。

**エ** 特別支援学校の小学部において、知的障害者である児童を教育する場合、特に必要のあるときは、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

II 学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「職業教育に関して配慮すべき事項」に関する記述ア～エのうち、正しいものを選んで組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は  。

ア 職業に関する各教科・科目について、実験・実習に担当する授業時数は105単位時間を標準とする。

イ 生徒の生活年齢を考慮し、職業に関する各教科・科目の履修を容易にするため特別な配慮が必要な場合には、各分野における基礎的又は中核的な科目を重点的に選択する。

ウ キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域及び産業界や労働等の業務を行う関係機関との連携を図る。

エ 普通科においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、必要に応じて、適切な職業に関する各教科・科目の履修の機会の確保について配慮する。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 2] 次の記述ア～エのうち、特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項」に示されているものとして適切なものには○を、適切でないものには×をそれぞれマークせよ。解答番号はアが  、イが  、ウが  、エが  。

ア 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、日本での生活に慣れるように体験学習を行うなど適切な指導を行うこと。

イ 学校の教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実するため、個別の指導計画に基づき指導方法や指導体制の工夫改善に努めること。

ウ 現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じてガイダンス機能の充実を図ること。

エ 各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。

Ⅲ 次の事例を読み、下の各問に答えよ。

生徒Aは、知的障害特別支援学校中学部に在籍する自閉症のある生徒である。

生徒Aの様子

- ・ 聴覚から情報を捉えることは苦手であるものの、視覚からの情報を理解することが得意である。
- ・ 他者の様子に関心があり、進んでコミュニケーションを取ろうとする。
- ・ 気持ちが落ち着かなくなったときに、自らの行動を抑制することが難しく、他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。
- ・ 困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない。
- ・ 険しい表情や口調で話してしまうことが多く、相手に動揺を与えてしまうことがある。
- ・ 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。
- ・ 一方的に話してしまうことが多く、相手の話を聞くのが苦手なため、会話が成立しにくい。

(「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月)」から作成)

[問 1] 下線部に関連して、自閉症のある児童・生徒の障害の特性を踏まえた指導に関する記述として**適切でないもの**は、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 他者との関わりをもとうとするが、その方法が十分に身に付いていない児童・生徒に対して、はじめから多くの教師と様々なやりとりを経験するようにする。
- 2 言葉でのコミュニケーションが困難な児童・生徒に対して、話し言葉を補うためにタブレット型端末等を活用して要求を伝えられるようにする。
- 3 音に過敏に反応する児童・生徒に対して、苦手な音がして落ち着かなくなりそうなときにイヤーマフを自分で着用して音量を調節できるようにする。
- 4 身体を前後に動かして自己刺激を過剰に得ようとしている児童・生徒に対して、ブランコ遊びなどの他の適切な活動に置き換えて、同じような感覚を得られるようにする。

[問 2] 次の記述**ア**～**エ**のうち、自閉症のある児童・生徒の障害の特性や「生徒Aの様子」を踏まえた生徒Aへの指導として正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

**ア** 他者に対して荒々しい行動をしてしまったときに、落ち着くことのできる小部屋を用意し、慣れた別の活動に取り組み、気持ちを落ち着かせるようにする。

**イ** 相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなどを、実際の生活場面とは切り離し、プリントを使って指導を行う。

**ウ** 絵カードを使って表情から相手の意図を推測する学習を行い、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるようにする。

**エ** 「もうちょっと優しい言い方なら大丈夫だよ」と、意味内容に幅のある表現を用いて状況に応じた話し方を口頭で伝える。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 3] 「生徒Aの様子」を踏まえ、個別指導計画の自立活動の目標を「一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話す」と設定した。この目標を達成するための具体的な指導内容として、次の記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

ア 相手に伝えなければならない事柄を、いつ、どこで、どうしたいかなどの項目を示した資料を見ながら順番に話す機会を設定する。

イ 予定されているスケジュールや予想される事態や状況を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりすることで見通しをもてるようにする。

ウ 日常の会話の様子を動画で撮影し、省みるようにすることで、相手の話を聞きながら話したり、穏やかな口調や表情で相手に接したりするよう意識させる。

エ 話し言葉ではなく、メモ帳やタブレット型端末等を活用して、文字のみで自分の話したいことを相手に伝えるようにする。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

IV 障害に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述ア～エは、視覚障害者である児童・生徒の視覚障害の状態に関するものである。正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は  。

- ア 視覚障害とは、視機能の永続的な低下により、学習や生活に支障がある状態をいう。片眼だけ視機能の低下がみられる場合も、遠近感覚がないなどの不自由があるため、視覚障害である。
- イ 視力測定はランドルト環を視標とした万国式試視力表を用いる。0.1の視標が5 mの距離から正解できない場合は、それよりも近い距離で測定する。例えば、1 mの距離で0.1の視標が正解できた場合の視力は、0.02である。
- ウ 最小可読視標とは、遠見視力表を用い、一番見やすい距離まで目を近づけてどこまで視標を読み取ることができるかで表す。例えば、「最小可読視標：0.3/5 cm」は、5 cmまで近づければ、0.3の視標が読み取れることである。
- エ 0.01より低い視力は数値で表せないが、明暗も分からない状態を「光覚なし」、明るい暗いかが分かる状態を「光覚（弁）」、眼前で動かした手の動きが分かる状態を「手動（弁）」、眼前の指の数が分かる状態を「指数（弁）」という。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 聴覚障害者である児童・生徒に対する指導上の配慮事項に関する記述ア～エのうち、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

ア 言葉の意味を理解したり、それによつて的確な言語概念を形成したり、その指導の過程において言語による思考力を高めたりするためには、具体的経験をいかに言葉で表現し理解できるようにするかが極めて大切なことである。

イ 読書の指導に当たっては、児童・生徒がどのような読み方をしているか、果たして読んでいる内容が理解されているかなどの観点から質問などをすることは、児童・生徒の意欲をそぐことになるため、避けなければならない。

ウ 各教科の指導においては、話し合い活動を中心に授業が展開され、そのことを通して、学習内容の理解が図られることから、意思の相互伝達が円滑かつ的確に行われ、それが全体として一層活発化されることが特に望まれる。

エ 児童・生徒が「分かる」ことに支えられて、主体的に学習が進められるよう発展的・応用的な事項に重点を置いたり、興味・関心のある事項を優先的に取り上げたりするなど、工夫して指導するよう努めることが大切である。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 3] 肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導に関する記述として最も適切なものは、次の1～5のうちではどれか。解答番号は  。

- 1 自立活動の指導を行うためには、特別支援学校自立活動教諭の教員免許状を所有していることが必要である。
- 2 学級担任の教員は、自立活動の指導は自立活動の担当者に全てを任せて、教科等の指導に専念すればよい。
- 3 自立活動の指導は、自立活動の時間を設けてその時間だけ行えばよく、教科等の指導では自立活動の指導を行う必要はない。
- 4 自立活動の指導は、指導目標を数値化してその達成状況に応じて観点別評価を行い、数値による評定を行う。
- 5 障害の状態により、必要に応じて専門の医師やその他の専門家の指導・助言を求めて適切な指導を行う。

[問 4] 次の記述ア～エのうち、知的障害者である児童・生徒の学習上の特性を踏まえた指導に関するものとして適切なものには①を、適切でないものには②をそれぞれマークせよ。解答番号はアが  、イが  、ウが  、エが  。

- ア 自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する。
- イ 一人一人の児童・生徒の知的障害の状態や経験、興味・関心などを踏まえるとともに、可能な限り実際の場面に即した状況で指導する。
- ウ 将来の社会参加と自立のため、補助具等の学習環境は、発達の段階よりも生活年齢に即して設定し、自力で取り組む力につながるよう指導する。
- エ 学校で学習した内容が、家庭生活を含む日常生活の様々な場面で、学習した内容の深化や、生活の向上につながるよう指導する。



[問 5] 病弱者である児童・生徒に対する指導に関する記述として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は  。

- 1 糖尿病の児童・生徒は、医療機関が主体となり、徹底した健康管理を行うため、学校では、児童・生徒が病状を気にしないように全ての活動に参加させる必要がある。
- 2 白血病の児童・生徒は、治療計画によっては、入院と退院を繰り返すことがあるので、退院時にはすぐに学校に登校し、指導が再開できるようにする必要がある。
- 3 心身症の児童・生徒は、心理的に緊張しやすく、不安になりやすい傾向があるが、病気の原因を把握しつつ、様々な集団に積極的に参加させる必要がある。
- 4 心臓疾患の児童・生徒は、運動制限の範囲を超えて身体を動かして、病状が悪化することがあるので、病状や体調に応じて生活を自己管理できるようにする必要がある。

## 31 (32採用) 【 特別支援学校 保健体育 】

19

問 題 番 号			解答番号	正答 1	正答 2	正答 3	配点	備考
大問番号	小問番号							
1	1		1	3			3	
	2		2	2			4	
	3		3	2			4	
2	1		4	3			4	
	2		5	4			4	
	3		6	1			4	完全解答
			7	3				完全解答
3	1		8	1			4	
	2		9	4			4	
	3	ア	10	1			1	
		イ	11	—			1	
		ウ	12	1			1	
		エ	13	—			1	
	4		14	3			4	
	5		15	5			4	
4	1	ア	16	1			2	
		イ	17	3			2	
	2		18	5			4	
	3		19	1			4	
	4	ア	20	—			1	
		イ	21	1			1	
		ウ	22	1			1	
		エ	23	—			1	
		オ	24	1			1	
I	1		25	3			3	
	2		26	3			3	
	3		27	3			3	
II	1		28	6			3	
	2	ア	29	—			1	
		イ	30	1			1	
		ウ	31	1			1	
		エ	32	1			1	
III	1		33	1			3	
	2		34	2			3	
	3		35	2			3	
IV	1		36	5			3	
	2		37	2			3	
	3		38	5			3	
	4	ア	39	1			1	
		イ	40	1			1	
		ウ	41	—			1	
		エ	42	1			1	
	5		43	4			2	